

研究・調査報告書

報告書番号	担当
341	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake and oral cavity cancer risk among men in a prospective study in Kerala, India 男性における飲酒と口腔癌のリスクについて；インドケーララ州における前向き研究	
執筆者	
Cancela Mde C, Ramadas K, Fayette JM, Thomas G, Muwonge R, Chapuis F, Thara S, Sankaranarayanan R, Sauvaget C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Community Dent Oral Epidemiol. 2009 Aug;37(4):342-9. Epub 2009 Apr 13.	
キーワード	
飲酒、インド、口腔癌、死亡率、発生率	
要旨	
目的： この研究の目的は、トリヴァンドラム口腔癌検診のコホート研究のデータを用いて口腔癌の発生および死亡における飲酒の影響と飲酒様式を明らかにすることである。	
方法： 対象者はベースライン時に飲酒量と頻度を含む生活様式の質問票にもれなく記入している。対象者の口腔癌の発症と死亡について追跡した。134名が口腔癌を発症した32,347名の対象者から飲酒様式別に口腔癌の発症率と死亡率をコックス回帰モデルを用いて年齢、宗教、教育、職業、BMI、生活水準、ガムをかむ習慣、喫煙習慣、野菜果実摂取を調整して求めた。	
結果： 現在飲酒、過去飲酒はともに口腔ガンのリスクの増加と有意に関連していた。ハザード比は現喫煙者で有意に49%上昇(95%CI=1-121%)、過去喫煙者では90%上昇(95%CI=13-218%)であった。飲酒頻度、飲酒期間と口腔癌(発生または死亡)の間に有意な量反応関係が観察された。	
結論： この集団では飲酒は口腔内発癌の重要な要因であり、この知見はリスクに曝されている集団に対する公衆衛生政策の立案に役立つであろう。	